

# PHOTO PALETTE



10月31日、多々良沼公園で第28回子どもまつりが行われ、約150人の子どもたちが参加しました。参加した子どもたちは、手作りアスレチックやレクゲームで楽しみました。小島理央さん(上下西宿・7区)は、「初めて子どもまつりに参加しました。友達とロデオなどの手作りアスレチックで何回も遊びました。友達もたくさんできて、とても楽しかったので、また来年も来たいな」と話していました。



友だち発見、わくわく冒険！  
子どもまつりは、楽しさいっぱい



## 親子でお米のつかみ取り



11月7日、役場周辺で邑楽町産業祭が行われました。お米のつかみ取りやご飯の無料配布、即売、模擬店などが行われました。保健センターで同時開催された邑多福まつりでは、骨密度レハルチェックなどの体験コーナーや健康相談、屋外ステージなどが行われました。

## 命の大切さを感じました



11月17日、中野小学校で動物ふれあい教室が行われ、生徒たちは命の大切さを学びました。鶴貝百香さん(前原・4区)は、「実際にうさぎを抱いてみると、思ったより温かくてやわらかかったです。心臓が動いているのも感じることができて、命の大切さを感じました」と話していました。

## 地元食材ですいとん作り



11月11日、邑楽南中学校で地元の食材を使った調理実習が行われました。生徒たちは、邑楽町生活研究グループの皆さんの指導で、すいとんや蒸しパン作りに挑戦。半田涼介さん(水立大黒・23区)は、「すいとんは、もちもちしていて、とてもおいしかったです」と話してくれました。

## 町の歴史 連載三百四十九回

細谷清吉(歴史研究家)

51

篠塚東馬は篠塚伊賀守重広の子として、この邑楽町の篠塚の馬場の篠塚城に生まれました。父の伊賀守重広は新田義貞の四天王、新田十六騎の筆頭として天下に勇名をとどろかせた武将です。後醍醐天皇の准后藤子(新待賢門院)に仕えた伊賀守の兄にあたると思われ、篠塚東馬の名は金竜寺文書や茨城県岩井市(現坂東市)幸町の篠塚五郎右衛門家(篠塚家系図)などに書いていますが、その消息は明かされておりません。ところが、太田市只上の板橋家所蔵の「南瀬口姓板橋家系図」には、次のように出ていました。「從四位

下武守鎮守府將軍、藤原大季の孫長沼六郎左衛門尉次男、南瀬口六郎左衛門太夫は新田左衛門督兼攝磨守正五位下左近衛中將正四位上源義貞次男で左兵衛佐正四位下義公。延文三年十月十日、武蔵野国於矢口為竹澤御自害。供奉。大嶋防守。南瀬口六郎由良兵庫之助。同新左衛門。土肥三郎左衛門。市川五郎井原正。世良田馬之助。篠塚東馬。船田太郎。豆新左衛門。細七郎次。熊澤兵司。以上十三人討死」つまり、藤原秀郷の孫長沼六郎左衛門の次男南瀬口六郎左衛門太夫は新田義貞の次男新田義興が延文三年(三五)十月十日、武蔵国矢口で竹澤の為御自害された。その時義興に従った十三人も討死した(注延文三年は北朝の年号で、南朝は正統三年)。新田義興は義貞の次男で、その生涯は太平記に書かれています。特に太平記巻三十三「新田左兵衛佐義興自害事」

には、詳しく出ています。建武四年(一三三七)、陸奥に挙兵した北畠顯家に応じて上野国新田に兵挙げ共に鎌倉を攻略し、西上して足利方と戦ったが、父義貞が戦死すると、上野方面に戻り、足利尊氏と戦っていました。正平十三年尊氏が死去すると、その三男足利基氏は鎌倉公方として鎌倉に入り、正平十一年から畠山國清が基氏の執事となり、義興は、ひそかに勢力をのびして鎌倉をうかがいました。畠山國清は竹沢右京亮に謀略をさすけ、正平十三年(北朝延文三年 一三五八)十月十日に多摩川の矢口で、船の底をくり抜いて義興ら十三人を水没させました。その十三人の中に篠塚東馬がおりました。時に義興二十八歳、その怨霊を鎮めるため、新田大明神と十三人を祭る社が矢口の近くに建てられました。



新田義興が祭られている新田神社(東京都大田区)